

# 電波利用環境委員会報告概要(案)

～CISPRストレージ会議の結果について～

平成27年12月22日

電波利用環境委員会

## ● ISM機器の妨害波許容値と測定法(CISPR 11)の改定

### 【対処方針】

規格の全般的改正や太陽光発電装置以外のGCPCの規格の追加に我が国は賛成としており、DCの発行に向けて全面的に協力する。また、GCPC関連の改定作業をこれまでどおり我が国主導で実施できるよう積極的に審議に寄与する。

また、GCPC等に関する要件を追加するために、検討の場として新規TFを設立するとともに我が国のエキスパートをTFリーダーとする提案を行う予定である。

### 【審議結果】

全般的改正、太陽光発電装置以外のGCPC並びに系統に連系されないDC/DC電力変換装置に対する要件の補遺(TF-SPC(仮)において検討)について、次期改定に向けたDCを発行することとなった。全般的改正のDCは、2016年6月頃に発行される予定である。また、TF-SPCのリーダーには、我が国のエキスパートが就任する。2015年10月中にTFの対象機器や作業範囲、名称等を追記・修正したDC原案を準備し、2015年中にDCを発行することが合意された。

## ● ワイヤレス電力伝送システムの検討

### 【対処方針】

これまでの我が国の提案が反映されるように努めつつ、早期の文書化を推進する。作業スケジュールについてはメンテナンスサイクルを確認し、現行規格の修正を早期に発行するための合意を得られるよう審議を促進する。

あわせて、国際電気通信連合無線通信部門 (ITU-R) におけるWPTの利用周波数の特定に係る審議状況を考慮して対処する。

### 【審議結果】

DC文書案についての審議が進められ、我が国からは、他の無線設備との共用検討の必要性や測定方法についての提案を行った。

審議の結果、議論の内容を反映した上でDC文書を発行することが合意された。

DC文書では2016年3月頃を締切りとして各国からの意見を募り、2016年4月に開催される中間会合でDC文書に対して寄せられた意見についての検討を行う予定である。

## ● 架空電力線、高電圧装置の妨害波特性に関する技術報告書(TR 18)の改定

### 【対処方針】

我が国はTRの改定に賛成としており、次版のCDに対する各国からの意見を確認するとともに、情報の追加や表現の修正など我が国から提出した意見の説明を行う。

### 【審議結果】

TR 18-1、18-2及び18-3 の第2版のメンテナンスについて、各CDに対する各国意見の確認が行われた。我が国の主要な意見は全て採用された。しかし、TR 18-2における測定法の記述については、不十分な部分があり、各国のデジタルTV放送の周波数帯を勘案した測定法とすべきであるなどの意見が出され、これらをDTRに反映させることが確認された。2015年11月中にDTRをIECの中央事務局に送付し、2016年3月を目途に投票が行われる予定である。

## ● 電気鉄道システムの妨害波特性に関する技術報告書(TR 26)の審議

### 【対処方針】

我が国主導で規格化を進めており、TR発行に係るDC案の提案を行う。

### 【審議結果】

我が国から新規プロジェクトの設置を提案するDCの回付を提案した。しかし、TC9におけるIEC 62236 (鉄道分野の電磁両立性)のメンテナンス期間中に検討を行うべきとの意見が出されたため、TC9との調整後にDC発行を検討することとなった。